

# 香川県農業・農村基本計画（素案）について提出されたご意見と それに対する県の考え方

問い合わせ先

農政課 企画グループ

〒760-8570 高松市番町四丁目1番10号

電話:087-832-3395/FAX:087-806-0202

E-mail:nouki@pref.kagawa.lg.jp

令和3年7月6日から令和3年8月6日までの1カ月間、香川県農業・農村基本計画（素案）について実施したパブリック・コメント（意見公募）では、4人から12件のご意見が寄せられました。ご意見をいただきありがとうございます。

これらのご意見について、適宜要約・集約して整理し、それらに対する県の考え方とあわせて以下に示します。

なお、賛否の結論だけを示したご意見や案と直接関係のないと考えられるご意見については、公表していません。

〈ご意見の提出者数〉

個人 4件

〈提出されたご意見の数〉

儲かる農業に関する事	1件
県産小麦「さぬきの夢」に関する事	1件
食の安全・安心に関する事	3件
有機農業の推進に関する事	2件
学校給食に関する事	4件
家畜防疫に関する事	1件
合 計	12件

ご意見（要約）	ご意見に対する県の考え方
儲かる農業に関する事（20ページ）	
基本計画にしきりに「儲かる農業」という言葉が出てくるが、私は農業者として、この言葉は非常に受け入れ難い。農業で儲けることがだめだというのではないが、資本収奪方法が、工業製品から農産物にとって変わっただけの印象だ。夢のない言葉選びには愕然とする。	農業者の減少や高齢化、耕作放棄地等の増加などが課題となる中、本県の農業・農村を持続的に発展させるためには、意欲ある担い手の確保・育成とスマート農業の推進等による生産性の向上により、生産者の所得向上につなげる必要があると考えています。

ご意見（要約）	ご意見に対する県の考え方
県産小麦「さぬきの夢」に関すること（37 ページ）	
<p>「さぬきの夢」の品質向上を推進するとあるが、ぜひ、パンにも使用できる小麦粉を作っていただきたい。外国の小麦粉はプレハーベストでグリホサートをかけているが、これは、海外では発がん性があるとして数万件の訴訟を抱えている農薬である。これからは安心・安全な小麦粉は、学校給食のみならず必要がある。</p>	<p>「さぬきの夢」については、小豆島手延素麺協同組合や県洋菓子協会、県菓子工業組合等と連携協力協定を締結し、素麺や菓子類、餃子等への用途拡大に取り組んでいるところです。また、「さぬきの夢」は学校給食用パンの原料としても使用されており、さらなる県産麦の利用拡大を働きかけていきたいと考えております。</p>
食の安全・安心に関すること（47 ページ）	
<p>米トレーサビリティーの制度の指導監督を実施していただくとありがたい。TPP協定により、今後、食品の表示義務がなくなるので消費者は困る。</p> <p>国は、ゲノム編集されたものも表示なく流通させ、作付の容認もしようとしているが、予防原則の観点からも流通させるべきではなく、EUなどでは、遺伝子組み換えと同じものとして流通を禁止している。</p> <p>愛媛県今治市のようなゲノム編集の作付を禁止する条例を制定すれば、香川県の農作物は安心・安全とブランド力が上がると思う。移住者の方は食の安心安全に興味がある方が多く、都会からの移住を考えている人へのアピールになる。地方自治体の役割は大きいと思う。</p>	<p>米トレーサビリティー制度の適切な運用を図るため、米穀業者等への計画的な巡回調査及び指導監督を引き続き実施することとしています。</p> <p>また、本県では遺伝子組み換えやゲノム編集による品種改良は行っておらず、従来 of 交配育種により県オリジナルの新品種の育成に取り組んでいます。</p> <p>なお、ゲノム編集技術を用いて品種改良された農産物については、国の動向を注視するとともに、ゲノム編集に関する農産物の情報収集に努めてまいります。</p>
<p>日本は、世界一、遺伝子組み換え作物を口にしているので、根本から変えてほしい。遺伝子組み換えは、作物そのものも健康的とは言い難く、昆虫の腸に穴をあける遺伝子を持っていたり、栽培期間中のみならず、ポストハーベスト、プレハーベストと世界中が忌避しているグリフォサートの問題がある。国の基準は世界からずれているので安心できない。</p> <p>主に菜種大豆を原料としたものが蔓延しているので、菜種栽培も輪作に加えるか、交雑が激しいと聞いたので、瀬戸内海の島しょなどで栽培するなどの計画も立ててほしい。</p>	<p>農業生産条件が不利な島しょ部においては、地域経済や伝統文化の維持・発展につながるよう、地域特産作物の産地の維持・活性化を図るための技術指導や商品づくりの支援に取り組むこととしています。</p>

ご意見（要約）	ご意見に対する県の考え方
<p>食の安全をやっていけば自然と注目されると思うので、県が意図する移住の促進につながると思う。特に、学校給食に焦点を当てることによって子育て世代のニーズに合わせてきて若くて意識の高い移住者を見込める。将来的な展望を自治体がみせることにより、住民は安心して生活できるので、安全な居を構えればその他の分野の原動力になる。</p> <p>食は生きる上での土台なので、安心・安全な食の自給ができる自治体を目指してほしい。</p>	<p>農業生産工程管理であるGAPへの取り組みや農薬・動物用医薬品等の適正使用の徹底をはじめ、生産から消費に至る各段階での安全性とトレーサビリティの確保に努めます。</p>
有機農業の推進に関すること（48 ページ）	
<p>世界の潮流は有機農業の推進だが、有機農業推進の部分が少ない。東京オリンピックの海外選手の中には、日本産のものをあえて食わず、自国から食べ物を持ってきたという話も聞く。農薬大国となった日本は、世界からも取り残されていることを自覚し、無農薬有機農業をもっと進めていくべきだ。</p> <p>それには、JAなどとも連携し、農薬化学肥料ありきの農業ではない、本当に持続可能な農業を温暖で農業に適した香川県が全国に先駆けて取り組む姿勢を示してほしい。</p>	<p>有機農産物については、一定のニーズはあるものの、知識と経験と高度な栽培技術が必要なことに加え、再生産が可能な価格の確保などの課題もあることから、消費者の理解の醸成にも努めていくこととしています。</p> <p>また、生産面においては、環境に配慮した農業への取り組みの裾野が広がるよう、環境保全型農業直接支払制度やエコファーマーの認定の推進などのほか、有機JAS認証取得者の増加を図りたいと考えています。</p>
<p>農薬や化学肥料による栽培方法で世界は土壌が日々失われているといわれている。国連FAOの発表によると、世界の土壌はこのままでは60年で失われてしまう。</p> <p>化学物質で微生物と植物の共生をおきかえた結果慣行栽培の土はすぐに崩れてしまう。県は、県民に有機無農薬、自然栽培などの持続可能な農業の大切さを教えてほしい。</p> <p>儲かる農業を強調するのではなく、もっと危機的な状況を認識してもらったほうが良い。素案には、有機農業のくだりもあるが、国が打ち出しているスマート農業にはゲノム編集種や新しいmRNA農薬でAI管理になっている。このような農業では持続可能性もないし、何より、住民の健康維持ができる作物が作れるとは思えない。従来のも米麦、大豆の輪作で循環型農業を進めてほしい。</p>	<p>有機農業や化学合成農薬・化学肥料を低減した環境保全型農業に取り組む農業者に対し、引き続き支援・指導を行うこととしています。</p> <p>また、米麦二毛作を中心に、米と野菜、麦と大豆・野菜など米麦と大豆や収益性の高い園芸作物と組み合わせた多様な二毛作の拡大も引き続き推進することとしています。</p>

ご意見（要約）	ご意見に対する県の考え方
学校給食に関すること（58～59 ページ）	
<p>学校給食に使用する米や野菜は、できる限り、地元産の有機作物へ変更していきたい。農薬や化成肥料に頼る農業は将来性がなく、土が死んでしまう。日本がかつて行ってきた循環型農業へ戻ることが大切だと思う。最低限、ネオニコチノイド系の農薬は使用を禁止して欲しい。</p>	<p>2018年の農薬取締法の改正により、国においては、21年度からすべての農薬において、最新の科学的知見に基づき安全性等の再評価を行うこととされており、この中でご指摘のネオニコチノイド系農薬も優先的に実施される農薬に含まれているところです。</p> <p>県におきましては、こうした国の動向を注視するとともに、引き続き、当該農薬に関する情報収集に努めてまいります。</p> <p>また、市町教育委員会では学校給食衛生管理基準に沿って食材等の理学検査を行っており、安全性を確保した学校給食の提供を行っております。</p>
<p>地産地消の項目で、学校給食の食材に県産は33パーセントとあり、少なさに驚いた。大型給食センター化が進むことで地場産品を使いにくくなっているとあったが、それならば、県は自校式給食場を残し、特殊ある小規模な給食提供体制を支援すべきだ。</p> <p>千葉県いすみ市で取り組まれている完全有機米給食を目指して行くべきだ。そうすれば、農家は安定した供給先が保証される。子どもや孫たちの顔がみえる学校給食ならば、無農薬有機栽培に取り組むモチベーションも高まる。環境の保全、地域力の向上が見込まれる。そのような食のこだわりが見える自治体に移住したいという若者を呼び込むチカラにもなる。それは、単なる儲かる農業ではない、夢のあふれる農業計画になる。</p>	<p>学校給食の食材については、規格や品質が統一された大量の食材を指定された期日に確実に供給することや、保護者の負担を考慮した適切な価格で調達できることも重要であると考えています。</p> <p>顔の見える学校給食提供のため、農業体験や生産者との交流給食の実施等学校等においても取り組みを行っております。学校給食における地産地消を推進するため、学校給食に関わる栄養教諭や「かがわ地産地消応援事業所」に登録いただいている福祉施設関係者等との交流の場の提供をはじめ、市場・流通業者と連携し、大規模化に対応した県産農畜産物の納入体制づくりなどの支援に取り組みます。</p>
<p>学校給食センターの合併に伴い、県産食材の活用が困難になっている中、栄養教諭や福祉施設関係者等と農業者との交流の場の提供等の支援をしていただけるとありがたい。</p>	<p>学校給食における地産地消を推進するため、学校給食に関わる栄養教諭や「かがわ地産地消応援事業所」に登録いただいている福祉施設関係者等との交流の場の提供などの支援に取り組みます。</p>
<p>有機農業を推進するには公共調達である学校給食にまずマーケットを安定させてほしい。あらゆる分野での連携が必要であるが、地域の食糧システムを構築するよう各自</p>	<p>学校給食の食材については、規格や品質が統一された大量の食材を指定された期日に確実に供給することや、保護者の負担を考慮した適切な価格で調達できる</p>

ご意見（要約）	ご意見に対する県の考え方
<p>治体に呼びかけてほしい。</p> <p>外に向けた農業は地域の住民の食糧安全保障が確立してからやってほしい。</p>	<p>ことも重要であると考えています。</p> <p>市場・流通業者と連携し、大規模化に対応した県産農畜産物の納入体制づくりなどの支援に取り組みます。</p>
<p>家畜防疫に関すること（70 ページ）</p>	
<p>昨年は鳥インフルエンザが県内で大流行し、多くの鶏が殺処分されるという実に悲しい出来事が続いた。そのことをどのように反省したのか、この計画には見えてこない。</p> <p>アニマルウェルフェアという、海外では当たり前前となっている飼い方の基準を国よりも先駆けて香川県として取組みを示すべきではないのか。鶏たちの命が命として守られ、大切にさせていただくような取組みをしてほしい。</p>	<p>昨年度に多発した鳥インフルエンザの教訓から、飼養衛生管理の指導徹底や普及啓発、万一発生した場合に備えた防疫措置体制の整備や家畜防疫員の確保などに取り組み、再発防止に努めています。</p> <p>アニマルウェルフェアに関しては、国において「アニマルウェルフェアに配慮した家畜の飼養管理の基本的な考え方」が示されており、生産者や関係機関とも情報共有を図ります。</p>